

大邱大学校の賀川豊彦研究の再認識

佐藤 寛*

1 大邱大学校との出会い

大邱大学校創立 60 周年おめでとうございます。特に、今年創立 60 周年に当たり開校に大きな影響を与えた賀川豊彦先生を記念して開校時の精神を思い起こす機会となりますことは大変意義深いことと存じます。賀川豊彦先生につきましては実はだいぶ前から今回一緒に招かれました石部公男先生からお名前は何っておりました。石部先生とは三十年来の友人であります。賀川先生を通して賀川豊彦先生について伺うまでは、賀川先生について詳しいことはほとんど知らない状態でした。ましてや大邱大学校との関係につきましては知る由もありませんでした。これにより貴校の創立にその精神面からも、また李永植牧師との関係でも深く関わりのある賀川豊彦先生について改めて認識を深くした次第です。

私と大邱大学校との出会いは、今から約 23 年前のことです。大邱大学校の金孝振教授（現：韓国慶雲大学校社会科学大学学長）が、中央学院大学の地方自治研究センター（現：社会システム研究所）に研究員として 1993 年から 1995 年までの 2 ヶ年間滞在しておりました。そしてまた、1996 年には河映秀教授（現：大邱大学校社会科学大学国際関係学科）が本学の地方自治研究センター（現：

社会システム研究所）に研究員として 1 ヶ年間滞在しました。

このような関係で両先生から私は滞在期間中に韓国についていろいろと教わりました。日本との共通点や相違点など知れば知るほど韓国に興味を持ったものでした。日本に居ながら韓国が最も身近な国に感じた次第です。

その後、両先生が帰国されてから、金孝振先生の指導教授である陸鍾洙博士の華甲祝賀会に招かれて初めて大邱大学校を訪問したのは 1997 年 4 月でした。まだ底冷えする釜山空港で韓国の土を初めて踏みしました。その後、20 年間毎年のように韓国を訪れる機会に恵まれました。多い時は年に 2 度や 3 度お邪魔することもありました。訪れる度に大邱大学校の方々には笑顔で快く迎えて頂きました。この心温まる精神は何処から来るのだろかと幾度と思ったことがあり、韓国の国民的な素質か、人間的な豊かな人柄であろうかと思っております。そしてまた、大邱大学校副総長に李 權溶先生から賀川豊彦先生の話聞いた時から心豊かな国民性に加えて、大邱大学校の建学の精神である「愛・光・自由」に基づく教育精神が基本にあることを知り、理解できたような気がしています。

20 年前初めて韓国の土を踏んだ一歩が今日まで継続して 18 回目の訪問を重ね、そして

* 中央学院大学社会システム研究所所長／教授

韓国：大邱大学校社会科学大学国際関係学科 客員教授

今日も大邱大学校のキャンパスに立っています。

大邱大学校の慶山キャンパスを初めて訪問して、先ず、広大なキャンパスと綺麗さには驚かされました。正門を入ると大きな道路が一直線に本部棟（シイボル・タワー）に向かって通じている。大きな校舎の配置や植栽などバランスの取れた景観でスケールの違いをまざまざと感じざるを得ない程感動したことが記憶に新しいです。学生達はいきいきとし、笑顔と楽しいコミュニケーションがキャンパスに溢れていました。恵まれた教育環境での学び舎はうらやましく感じた次第です。正門の前に大きな道路があり、その向こう側には汝川池や商店街、学生用のアパート群があり、そして周辺全体は畑や果樹園、水田がある。汝川池の存在が大邱大学校のキャンパス一帯をまるで桃源郷のような環境に醸しだしている。このような恵まれたキャンパスは韓国においてもそう多くないであろうし、日本でもあまり見かけない。

最初に訪問してお会いしたのは朴鉦炆総長でございました。朴総長は韓国の元環境長官であり、のちに佐藤の研究にはたくさんのアドバイスを頂き韓国の河川環境、水研究には大変お世話になった次第です。朴総長主催の歓迎会が行われ、その後、陸鍾洙教授主催の2次会が行われた。その時初めて、「爆弾酒」を飲みました。韓国には、このような酒の飲み方もあるのかと驚きの連続である。「爆弾酒」について帰国後に調べたら、全斗煥元大統領が軍人時代に有事に備え、いつ何が起こるかわからないので、ビールとウイスキーを別々に飲んでいて時間が無い故に、ビールのグラスにウイスキーのグラスを入れて一気に飲み干す。そして飲み干すとグラスを回しウイスキーの小さなグラスがぶつかり綺麗な音が奏でる。かなりきつい酒の飲み方である。

口から火が出る思いと一気に酔ってしまう。これが数回は繰り返されたのが記憶にある。これも韓国文化の一つかと納得した次第である。

その後、大邱大学校元総長尹徳弘先生には一方ならぬご指導とご協力をいただいた。尹元総長のご協力で慶尚北道庁、大邱市役所、星州町役場などの数多くの施設や現地を調査させていただいた。星州ではアンケートを実施させていただき研究論文で大きな成果を上げさせさせていただいた。時には大邱大学校の公用車で調査に出かけることもしばしばあった。

また、現在の洪徳律総長においても、韓国で研究を行うために数多くの招聘状を頂き、研究に大変な便宜を計らっていただいた次第である。そして官庁へのメッセージや韓国河川調査で栄山江や洛東江の堰の調査、また韓国のラムサール条約指定地のひとつである牛浦沼の調査にも職員1名と公用車使用等数々の配慮を頂いた次第である。昨年（2015）には大邱市で開催された世界水フォーラムにも参加させていただくなど数多くのチャンスを洪徳律総長から頂いた次第である。

河映秀教授には1996年、中央学院大学に客員研究員として私の研究センターに起こし頂いた。河教授は、行政学の視点から日本の「日本文化論」「日本人の心」など韓国と日本の慣習や習慣の相違に大変興味をお持ちであった。「人とのふれあい」に関心を寄せておられた。河教授との関係は、彼の帰国後に、より一層の親近感を覚えた。河教授のお人柄の良さと真摯な姿勢がとても好感を持てた。物事に対して非常に冷静で、かつ研究や学生指導に対する力強さを感じた。佐藤は河映秀教授から数多くのことを学んだ。韓国を訪問の度に、研究にお付き合いや通訳などしていただいた。洛東江、安東、星州、慶州、浦項、

釜山など、この20年間に韓国内の調査にお付き合いくださった。1988年夏に韓国を訪問したころの話である。安東ダムでハプニングが起きた。河教授の運転する車から安東ダムが見えたので、筆者は車が止まるやいなやドアを開け、まっしぐらに走り、ダムの入口からダムに近寄ろうとした瞬間、警備員が拳銃と警告の笛を鳴らして怒鳴っていた。これを見た瞬間、河教授は車のドアを開けたまま慌てて飛んできて警備員からきつく注意されていた。ここは無事に事なきを得た。筆者の心臓が止まる瞬間であった。日本のダムは拳銃を持った者は警備して居らず、つい日本の感覚で対応してしまった。ここは韓国であると深く反省した次第である。警備員から安東ダムの事務所に電話していただき車で事務所に向かった。車では、深く反省し、せっかく日本から安東ダム調査に来て調査が失敗したかと不安げに事務所に向かった。事務所の入口は鉄の扉で、拳銃を肩から下げていた警備員に止められ、河教授は身分証明書、筆者はパスポートを提示して中へ入った。この瞬間より一層の不安がよぎった。なるようになるさと思い、事務所の中に入り、若いエリート事務官が1名やってきた。名刺交換しながらダメかなと思った瞬間、天が味方した。このエリート事務官は大邱大学校の理工学部卒業生であった。河教授と筆者は顔を見あいながら微笑み安堵した。このことは今でも河教授と酒を酌み交わす度に語り草になっている。

私にとって大邱大学校は、かけがえのない存在である。一つの出会いが20年以上の関係が継続していることは「運命の出会い」である。私の人生において大邱大学校は、佐藤寛を大きく成長させ、大きく飛躍させてくださった。そして河映秀教授との出会いがなければ今日の佐藤は無い。そして今日ここに立つことも無い。河映秀教授と佐藤寛は兄弟以

上の関係、研究者・教育者としての志を同じくする同志である。

このような関係で大邱大学校は筆者にとって“母校的”な存在である。

大邱大学校と河映秀教授にはいつも感謝している。

2 賀川豊彦牧師の人間像瞥見

そこでこの機会をお借りいたしまして少々賀川豊彦先生のことについて触れさせていただきたいと思います。賀川豊彦先生は1888年日本の兵庫県神戸市に生まれ、1893年父母の死去により、姉とともに徳島県の本家に引き取られました。当時の日本は家父長制度の下、本家・分家といった家制度が非常に強く残っていた時代です。1900年に旧制徳島中学校に入学後、1905年には東京の明治学院神学部で学び、さらに神戸神学校でも勉学をしたのです。その間、1909年には神戸で当時極めて貧しい人たちが住む、いわゆる貧民街と呼ばれていた地域に自から住みその日暮らしの方たちと苦楽を共にし、救貧活動を始めた。この時期に李永植牧師とも交流し、ともにしいたげられたもののために祈りつつどのような人間でも自分と同じように愛そうと実践した方でした。李永植牧師もこのような賀川先生の思いと心と同じくする同士としての賀川先生を尊敬し、同じように特に体に障害を持っている方に対してその自立のために行動したのだと思います。

その後、賀川先生は単に個人として、目の前のしいたげられる人を個別に救済する活動のみでは限界があると思ったようです。そこで、1914年から1916年には米国のプリンストン大学・神学校に入学し意欲的に幅広く社会の在り方も含め勉学をしたのです。帰国後、大阪で購買組合共益社を設立しました。

これは相互扶助の精神から成り立つ協同組合の考え方で、さらに 1921 年には日本最大の生活協同組合「コープこうべ」の前身となる神戸購買組合、^{なだ}灘購買組合を立ち上げました。1920 年には自伝的小説「死線を越えて」を出版し 400 万部という空前の大ベストセラーになりました。しかしその印税のほとんどを社会事業のために使ったということです。賀川先生は目の前の苦しんでいる人を個々に助けるだけでなく、社会的にも弱くしいたげられた貧しい人々を組織的に救うことを考えたのです。米国での労働運動や、社会事業などにも接し、神戸の三菱造船所、（これは現在の三菱重工神戸造船所です）や現在の川崎造船神戸工場の前身である川崎造船所の労働争議なども先頭に立って指導をしたのです。またそのような活動のみでなく当時関東大震災という大変な地震により被災した人のためすぐに東京へ赴きそこに住み、東京本所で被災者の救援活動にわけ隔てなく取り組んだのです。更に奥丹後地方での地震の際にも救援をしている。その後も更には幅広い農民運動を組織し、1925 年には当時 7 万人の組合員を擁するまでになった。農民のために資源のない日本で付加価値の高い産業として時計産業も考え、農村時計製作所を設立した。この農村時計製作所と現在の日本の時計産業とのかかわりについては「賀川豊彦学会論叢 16 号」に学会長の石部先生の論文が載っていますのでそちらにゆずりますが、そのほかにも数え切れないほど多くの事業創設にかかわっているのです。特に協同組合については相互扶助の精神がその中心であるとして、生活協同組合のみでなく金融機関としての信用組合を組織した。このような協同組合の考え方は賀川豊彦の根本的経済思想ともいえるでしょう。これについては 1936 年にアメリカで出版され、全世界 26 か国で出版されている「Brotherhood

Economics」を参考にしてください。しかし残念ながら英文での出版から 73 年ぶりに賀川の母国日本でやっと日本語に翻訳され「友愛の政治経済学」として日本語に訳されて出版の運びとなったのです。この翻訳は今年大邱大学校を訪れた「公益財団法人賀川豊彦事業団雲柱社」の理事長加山久夫先生と石部公男先生がなされたのです。

賀川先生は日本全国をキリスト教の伝道のために精力的に巡回をしたのですが、それだけでなくアメリカ、ヨーロッパ、中国等世界各国で精力的に講演をし、非常に大きな影響を与えたということです。ちなみにルーズベルト大統領当時、アメリカ政府の招きで渡米した際には半年あまりで大小合わせて 500 回ほどの講演を行い聴衆は 100 万人を超えたそうです。

第 2 次世界大戦については国際戦争反対社同盟に参加し、日本で渋谷の憲兵隊に 18 日間も拘置され取り調べも受けています。戦後は戦争について「一億総懺悔運動」に協力し、終戦直後の東久邇宮内閣の参与や勅選貴族院議員なども務め、何度か首相候補にもなるなど政治家としての面ももっていました。もちろん神ではない人間としての賀川先生である以上、過ちもないわけではありません。彼に対する言動に批判もありますが、その崇高な生き方に対しては畏敬の念を覚えるものです。アメリカのワシントン大聖堂には聖人として賀川豊彦先生の彫像が展示されているということです。またガンジーやシュバイツァ、賀川を 20 世紀の三大聖人と呼ばれることもあります。大邱大学校の創設がこのような人と極めて関係の深い先生により設立されたということはなんと素晴らしいことでしょうか。

3 大邱大学の賀川豊彦牧師研究の再認識

2015年4月13日から17日まで大邱大学校を訪問した。この目的は大邱広域市、慶尚北道で12日から17日まで、第7回世界水フォーラムに参加するためである。

2003年に、第3回世界水フォーラムがアジアで初めて開催されたのが日本の琵琶湖・淀川流域（京都・滋賀・大阪）にである。それに次いで、アジアでの2番目が韓国での開催である。

この世界水フォーラムは、世界中の水関係者が一堂に会し、地球上の水問題解決に向けた議論や展示などが行われる、3年に1回、開催される世界最大級の水の国際会議である。

日本で開催された第3回世界水フォーラムにはチャンスに恵まれず参加出来なかったが、第7回の韓国開催には大邱大学校洪徳律総長の計らいにより世界水フォーラム事務局より招待状が日本の中央学院大学佐藤研究室に届いた。

この上ない喜びで、韓国に飛んだ次第である。

このフォーラム開催中、厳重な警備体制の中、各会場ではいろいろな発表や展示がなされていた。講演ではアフリカの水事情の深刻な状況の発表を聞き、アフリカの現状について研究論文や雑誌で紹介されているのと同じであったと痛感した。同じ水研究を行う者同士が懸念する視点が同じである。また、世界の各国が推進する水対応や水政策、世界の水ビジネスなど多彩なブースが並んでいた。

水研究者の一人として、第7回世界水フォーラムに参加できたことは私の生涯において大切な思い出として研究歴史の1頁に華を添えた。

この滞在期間中に李槿溶大邱大学校副総長と昼食を共にした。李副総長とは以前、理

事時代に一度会食したことがあって、創設者の孫の方であることは承知していた。今回どのような理由で昼食となったかは定かでないが、言われるままに国際交流センター職員の李さんの運転する車に乗って目的地に向かった。大邱大学校から車で約20分位のところの街並みに韓国料理のレストランがあった。そこで待っていたのが李槿溶大邱大学校副総長である。

会食が始まり、会話が進む中ごろで李副総長が急に世間話から真剣に発言した。

李副総長：「かがわ」を知っているか？

佐 藤：「かがわ」、サッカーの香川真司ですか？日本のプロサッカー選手で、現在ヨーロッパで活躍していますが。とても人気のあるサッカー選手です。

李副総長：違う

佐 藤：四国の香川県ですか？

李副総長：違う

佐 藤：神奈川県？

李副総長：全く違う

佐藤は少し考えて！

佐 藤：あとは「賀川豊彦」くらいしか知りませんね。

李副総長：それだ！それだ！（あわてて叫びました、少し興奮ぎみであった）

なぜ、佐藤は「賀川豊彦」を知っているかとの質問を受けた。

佐 藤：佐藤は「賀川豊彦」はよく知らないが。日本の研究者や賀川豊彦の資料館は知っています。2016年2月3日に賀川豊彦の松沢資料館を訪ね、その館長の金井新二先生や杉浦副館長は知っています。

同席の河映秀教授と李さんは事情をよく把握していないようであった。会話の内容は

理解していたものの賀川豊彦はどのような人物かは把握し切れていない様子であった。

李副総長：日本人に会うたび「賀川豊彦」の話をして誰も知っているかと答えなかった。今まで、何度も「賀川豊彦」を模索していたが、こんなに近い佐藤教授がご存知とは！

李副総長：早急に大邱大学校に戻るぞ！

食事を少し残して、慌てて一目散に、大邱大学校のキャンパスの西エリアに向かった。

そこは、小高い西エリアで眼下には汶川池やアパート群、田畑が見える丘である。西エリアには立派な教会と幼稚園があり時折園児の声がしていた。

写真3 賀川豊彦肖像画



大邱大学校賀川豊彦記念館揭示
撮影：筆者 2016.4.14

写真4 大邱大学校賀川豊彦記念館前



教会と幼稚園が併設
撮影：李知善 2016.4.14

写真5 教会の礎石



撮影：筆者 2016.4.14

写真6 賀川豊彦牧師資料室のプレート



撮影：筆者 2016.4.14

李槿溶副総長の案内で教会の中には、4人で入った。ドアの上には賀川豊彦牧師資料室と称する（写真6）プレートが掲げてあった。部屋に入るために係員に李槿溶副総長が電話していた。しばらくすると係りの職員がやってきた。鍵を開けるのに約20分の時間を要した。あとで聞くと、開かずの扉である。係の職員の方はたくさんの鍵を持ってきて、どの鍵かわからないようであった。

開けて中に入れば、東京の松沢資料館にあった「賀川豊彦」の肖像画と同じ物が掲げてあった。

そして、李永植牧師と李泰榮元総長の肖像画が掲げてあり、また賀川豊彦の関係資料が、ガラスのケースに陳列してあった。

入った瞬間タイムスリップの現象に誘われた。この建物は1986年に建立されたとのことで、それ以来、この建物の利用頻度や訪問

写真7・8 ガラスケースの中の文献



撮影：筆者 2016.4.14

者が皆無に等しい状態であったようである。

一部の資料は日焼けしていた、一部には蜘蛛の巣が張り巡らされていた。書籍や雑誌も古本で希少価値のあるように感じた。新しい文献は何一つなかった。

誰が見ても、人が入った気配は感じられない。

30年間の空間がここにあり、“だれかここに新たな空気を入れよ”と叫ぶ声が聞こえたように思われた。寧ろ、この叫び声は李槿溶副総長には、はっきりと聞こえていたような気がした。

この部屋の訪問者や利用者が皆無に等しいと言うことは大邱大学校で、賀川豊彦の研究が30年前で止まったままで、現在を向かえている状態である。

李槿溶副総長の熱意が日本の賀川豊彦関係者を訪問に結びついた。2015年の9月16日に日本を訪問し、賀川豊彦松沢資料館や本所賀川豊彦記念館、中ノ郷信用金庫を訪問し関係各位と意見交換や資料収集などを行って

写真9 李永植牧師と李泰榮元総長の肖像画



撮影：筆者 2016.4.14

写真10 教会内



撮影：筆者 2016.4.14

写真11 李槿溶副総長と筆者



撮影：河映秀 2016.4.14

る。また、賀川豊彦の関係地であった神戸なども訪問し関係各位との意見交換が行われ、今後より活発な学術交流が期待される。

また、2016年9月9日に明治学院大学で賀川豊彦学会が開催され、大邱大学校から河映

秀教授が参加し「韓国：大邱大学校における賀川豊彦」と題して発表なされた。

韓国における賀川豊彦先生の思想や精神が大邱大学校に根づいていることに会員からは驚嘆の声が寄せられた。

4 提言—韓国賀川豊彦学会創設への提言

賀川豊彦は20世紀の三大聖人の一人として崇められ、ワシントン大聖堂に彫像が展示されるなど日本やアメリカをはじめ世界の多くの人々から尊敬されていたかが伺える。

日本における賀川豊彦学会は設立して約30年になります。1986年に「賀川豊彦論叢」が第1号の学会誌として発刊されました。現在では第24巻を数え、2002年にはニュースレターなどの発行も行っており、日々活発な活動を邁進しております。

賀川豊彦学会は賀川先生に関することについて、その信仰、思想、業績、人間関係など全てを研究対象として「人間：賀川豊彦」の研究を行っています。賀川先生は数多くの教えを示され現代に伝えました。この学会の会員は賀川先生の信仰に感銘を受けたキリスト教徒信者が多いのですが、私のようにキリスト教徒信者以外にも会員として参加し「賀川豊彦」に魅せられた方もたくさんおります。

もちろん私も河映秀教授とともに現在は賀川豊彦学会の会員となっています。

現在の日本の人口に占めるキリスト教徒の割合はきわめて少なく2%以下でございます。

韓国のキリスト教信者は、韓国統計庁が2005年発表によりますとプロテスタントが18.3%、カトリックが10.9%でプロテスタントとカトリックを合わせたキリスト教全体では29.2%であります。キリスト教信者数は約1376万人です。

キリスト教徒信者の多い韓国においては、

賀川豊彦先生の精神やイ・ヨンシク牧師やイ・テヨン初代学長に賛同する方々が多いものと推測致します。

大邱大学校のイ・ヨンシク牧師やイ・テヨン初代学長においても賀川先生と同様に弱い者の立場になって行動し、障害者へ惜しめない愛情と深い愛を捧げて自立を目指した教育機関の設立と運営に当り、教育理念の「弘益人間」と建学の精神である「愛・光・自由」が今日の大邱大学が教育と福祉を掲げた大学になったのである。

このように大邱大学校の教育理念や建学の精神のみなざる中において、「賀川豊彦」の存在とそこにかかる人々の期待は大きいと思います。社会への善意をさらに推進させるためにも賀川豊彦の研究が益々重要と存じます。今後においても大邱大学校内はもとより韓国内においても賀川豊彦の研究をしている方も多数いるものと推測致します。そして、今後におきまして賀川豊彦の研究者が多数出ることを期待いたしたく存じます

これらの賀川豊彦の精神やイ・ヨンシク牧師やイ・テヨン初代学長の精神を継承するためにも大邱大学校に「韓国賀川豊彦」学会を創設することを提言致します。

なお、2016年12月8日に大邱大学校創立60周年の記念式典「惺山国際シンポジウム開催—李永植牧師と賀川豊彦牧師—」が開催された。創立を記念して、創設者である李永植（イ・ヨンシク）牧師の法要や開講60周年記念オープニングセレモニーが「DU広場ビジョン館」で行われた。そして大学校内の「一生教育館」講堂で「李永植牧師と賀川豊彦牧師」と題して国際シンポジウムが開催された。今回のシンポジウムは大邱大学校の創設に中心的な役割を果たした李永植（イ・ヨンシク）牧師と賀川豊彦の精神の教えが今日の大邱大学校に大きく影響を与えた。

当シンポジウムにおいて、筆者がパネリストとして発表した原稿を掲載したものであって、本稿は論文でないことをお断りする。

【参考文献・資料】

- 賀川豊彦著『死線を越えて』教養文庫、1997年4月。
- 河 映秀「韓国：大邱大学校における賀川豊彦」『賀川豊彦学会論叢第24号』賀川豊彦学会発行 2016年8月。
- 寺ノ門栄『愛と光自と自由と』行政通信社 昭和50年4月。
- 隅谷三喜男『賀川豊彦』岩波現代文庫、2011年10月。
- 『四十年の歩みー賀川豊彦の精神を受け継ぐ者たち』財団法人 本所賀川記念館 2009年9月。
- 賀川豊彦著、『友愛の政治経済学』加山久夫・石部公男訳、コープ出版 2009年6月
ja.wikipedia.org/wiki/ 参照 アクセス
2016.11.30

Special Contribution:
Toyohiko Kagawa Research
Re-recognition of Toyohiko Kagawa Research in Daegu University

Hiroshi Sato
Professor, The Institute of Social System,
Chuogakuin University

Abstract

To celebrate the 60th anniversary of the foundation of Daegu University, international symposium was held in “Life Education Hall” on December 8, 2016. It was entitled as “Pastor Young Shik Rhnee” who played a central role in the creation of Daegu University, and “Toyohiko Kagawa”.

Pastor Rhee together with Toyohiko Kagawa, learned in Kobe Seminary School together. They shared the same ambition as Christians, walked across the boundary of nations and human rights, and devoted all their lives to help the weak, especially the oppressed ones. The educational philosophy of Daegu University, “Devotion to the welfare of mankind” and its spirit “Love, Light and Freedom” support today’s Daegu’s fundamentals, i.e., education and welfare.

It is true that the spirit of Pastor Toyohiko Kagawa influenced greatly to Daegu University. However, the study of Toyohiko Kagawa in Daegu ceased to continue. This is an episode of the study about Kagawa that was re-recognized by the meeting with the members concerned when the writer visited Daegu University in April 2015.